

令和8年度病害虫発生予察予報第2号(令和8年5月)

令和8年5月8日
高知県病害虫防除所

作物名	病害虫名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 黄化えそ病 退緑黄化病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(中央、中西)、やや多(西)</u> 平年並(中央)、やや少(中西、西) <u>多(中西)、やや多(中央)</u> 、平年並(西) <u>多(県下全域)</u> <u>やや多(中央、西)</u> 、平年並(中西) <u>多(県下全域)</u>
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 すすかび病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ ハモグリバエ類	<u>多(中央、西)</u> 、少(東) <u>多(西)</u> 、平年並(東)、やや少(中央) <u>多(西)</u> 、少(東、中央) <u>やや多(東)</u> 、少(中央、西) <u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(東)</u> 、やや少(西) <u>多(東、中央)</u> 、少(西)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ ヒラズハナアザミウマ タバココナジラミ コナカイガラムシ類	<u>多(東)</u> 、平年並(中央、中西) やや少(東、中西) 少(中央) <u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(中西)</u> 、やや少(東) <u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(東)</u> 、少(中西) <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、やや少(東) <u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(中西)</u> 、やや少(東) <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、やや少(東)
促成トマト	灰色かび病 葉かび病 すすかび病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> やや少(中央) <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u>
水稻	スクミリンゴガイ	<u>多(東)</u> 、 <u>やや多(中西)</u> 、平年並(中央)、 やや少(西)
カンキツ類	果樹カメムシ類	<u>多(県下全域)</u>

《予報の概要》

- ※ ()内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
 県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
 県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
 吾川郡いの町および高岡郡日高村
 県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
 県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
 なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れています。

I 気象予報(高松地方气象台 5月7日発表)

5月9日から6月8日までの天候見通し

<予想される向こう1か月の天候>

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、2週目は気温がかなり高くなる見込みです。
- ・天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並の確率40%です。
- ・週別の気温は、1週目は、平年並確率50%です。2週目は高い確率80%です。3～4週目は、高い確率60%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1か月	四国地方	気温	10	40	50
		降水量	30	40	30
		日照時間	30	40	30

<気温経過の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1週目	四国地方	30	50	20
2週目		10	10	80
3～4週目		10	30	60

<予報の対象期間>

1か月:5月9日(土)～6月8日(月)

1週目:5月9日(土)～5月15日(金)

2週目:5月16日(土)～5月22日(金)

3～4週目:5月23日(土)～6月5日(金)

II 病虫害発生予想

1 促成キュウリの病虫害

1)べと病

予 想 発生量:多(中央部、中西部)、やや多(西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は中央部・中西部で平年よりも多く、西部でやや多かった。発病程度は中西部・西部で平年より高く、中央部で低かった。
- (2) 向こう1か月の降水量は平年並、気温は高くなると予想されていることから、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、予防・発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 草勢の衰えは発病を助長するので適正な栽培管理を行って、草勢の維持をはかる。

2) うどんこ病

予 想 発生量： 平年並(中央部)、やや少(中西部、西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中央部で平年並、中西部・西部でやや少なかった。発病程度は西部で平年並、中央部・中西部で低かった。
- (2) 向こう1か月の降水量は平年並、気温は高くなると予想されていることから、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、予防・発生初期の防除を徹底する。薬剤によっては、散布後も病斑の見た目が変化せず防除効果がわかりづらい場合があるため、防除後に展開した葉の発病の有無で防除効果を判断する。
- (2) 薬剤によっては耐性菌を生じやすいため、単一薬剤を使用するのではなく、ローテーション散布を心がける。

3) 黄化えそ病

予 想 発生量： 多(中西部)、やや多(中央部)、平年並(西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部で平年よりもやや多く、中央部で平年並、西部でやや少なかった。発病程度は中西部で平年より高く、西部で平年並、中央部で低かった。
- (2) 気温が上昇し、媒介虫であるミナミキイロアザミウマの密度が高まると見込まれることから、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。
- (3) 各地域とも既発ほ場で新たな発生が確認されており、新たに発生したほ場も見られる。また、ミナミキイロアザミウマの発生は、県下全域で確認されている。

対 策

- (1) ミナミキイロアザミウマの防除を徹底する。また、栽培の終了時にはハウスを密閉して蒸し込み等により、ウイルスを保毒した虫がハウス外に飛び出さないよう注意する。
- (2) 罹病株は早期に除去し、埋却などにより処分する。
- (3) 開口部に防虫ネットなどを張って、ミナミキイロアザミウマの侵入を防ぐ。

4) 退緑黄化病

予 想 発生量： 多(県下全域)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られ、いずれの地域も平年と比べ発生面積は多く、発病程度は高かった。
- (2) 気温が上昇し、本病の媒介虫であるタバココナジラミの密度が高まると見込まれることから、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

(3) 各地域とも既発ほ場を中心に発生が確認されており、新たに発生したほ場も見られる。また、タバココナジラミの発生は、県下全域で確認されている。

対 策

- (1) タバココナジラミの防除を徹底するとともに、栽培の終了時にはウイルスを保毒した虫がハウス外に飛び出さないよう、ハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底する。
- (2) 開口部に防虫ネットなどを張って、媒介虫の侵入を防ぐ。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量: やや多(中央部、西部)、平年並(中西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中央部・西部で平年並、中西部でやや少なかった。発生程度は中西部、西部で平年よりやや低く、中央部は低かった。
- (2) 気温が上昇し、本虫の増殖に好適となることから、タバコカスミカメ等の天敵が定着していない既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底するとともに、栽培の終了時にはウイルスを保毒した虫がハウス外に飛び出さないよう、ハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底する。
- (2) 開口部に防虫ネットなどを張って、媒介虫の侵入を防ぐ。
- (3) 薬剤抵抗性が発達しているため、天敵を活用した防除体系も心がける。
- (4) 雑草にも広く寄生することから、ほ場周辺の雑草を除去し、環境衛生に努める。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量: 多(県下全域)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られ、いずれの地域も平年と比べ発生面積は多かった。発生程度は中西部・西部で平年よりも高く、中央部で平年並だった。
- (2) 気温が上昇し、本虫の増殖に好適となるため、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は葉裏に産卵するため、薬剤防除は薬剤が葉裏にかかるように実施する。多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底するとともに、栽培の終了時にはウイルスを保毒した虫がハウス外に飛び出さないよう、ハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底する。
- (2) 開口部に防虫ネットなどを張って、媒介虫の侵入を防ぐ。
- (3) 薬剤抵抗性が発達しているため、天敵を活用した防除体系も心がける。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量: 多(中央部、西部)、少(東部)

根 拠

- (1) 4月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は中央部・西部で平年よりも多く、東部では少なかった。発病程度は中央部・西部で平年よりも高く、西部で低かった。
- (2) 例年5月は中央部・西部では発生が増加し、東部では同程度の発生が続く傾向にある。
- (3) 向こう1か月の降水量は平年並、気温は高くなると予想されていることから、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、予防・発生初期の防除を徹底する。薬剤によっては、散布後も病斑の見た目が変化せず防除効果がわかりづらい場合があるため、防除後に展開した葉の発病の有無で防除効果を判断する。
- (2) 薬剤によっては耐性菌を生じやすいため、単一薬剤を使用するのではなく、ローテーション散布を心がける。

2) 黒枯病

予 想 発生量:多(西部)、平年並(東部)、やや少(中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は西部で平年より多く、東部は平年並、中央部でやや少なかった。発病程度は西部で平年より高く、中央部は平年並、東部で低かった。東部、西部では果実への被害(水疱症)の発生も確認された。
- (2) 例年5月は県下全域で同程度の発生が続く傾向にある。
- (3) 向こう1か月の降水量は平年並、気温は高くなると予想されていることから、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本病は25℃前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。日射が強くなり、ハウス内気温が急上昇し結露しやすくなるため、晴天時には特に注意する。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、予防・発生初期の防除を徹底する。
- (3) 発病葉は伝染源となるので早めに除去し、ハウス外で処分する。また、栽培終了後、伝染源を残さないように被害茎葉の処分を行う。

3) すずかび病

予 想 発生量:多(西部)、少(東部、中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は西部で平年より多く、東部・中央部では少なかった。発病程度は西部で平年並、東部・中央部で低かった。
- (2) 例年5月は県下全域で同程度の発生が続く傾向にある。
- (3) 向こう1か月の降水量は平年並、気温は高くなると予想されていることから、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本病は25℃前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、予防・発生初期の防除を徹底する。

(3) 栽培終了後、伝染源を残さないように被害茎葉の処分を行う。

4) ミナミキイロアザミウマ

予想 発生量: やや多(東部)、少(中央部、西部)

根拠

- (1) 4月の調査では東部で発生が見られ、発生面積は平年並、発生程度は平年より高かった。
- (2) 例年5月は東部では発生が同程度、中央部では増加し、西部では減少する傾向にある。
- (3) 気温が上昇し、本虫の増殖に好適となることから、タバコカスミカメ等の天敵が定着していないほ場では既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底するとともに、栽培の終了時にはハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底する。
- (2) 開口部に防虫ネットなどを張り、侵入を防ぐ。
- (3) 薬剤抵抗性が発達しているため、天敵を活用した防除体系も心がける。
- (4) 雑草にも広く寄生することから、ほ場周辺の雑草を除去し、環境衛生に努める。

5) タバココナジラミ

予想 発生量: 多(中央部)、やや多(東部)、やや少(西部)

根拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりも多く、東部は平年並、西部は少なかった。発生程度は西部で平年より高く、中央部でやや低く、東部で低かった。
- (2) 例年5月は中央部では増加し、東部・西部では同程度の発生となる傾向にある。
- (3) 気温が上昇し、本虫の増殖に好適となることから、タバコカスミカメ等の天敵が定着していないほ場では既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対策

- (1) 本虫は葉裏に産卵するため、薬剤防除は薬剤が葉裏にかかるように実施する。多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底するとともに、栽培の終了時にはハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底する。
- (2) 開口部に防虫ネットなどを張り、侵入を防ぐ。
- (3) 薬剤抵抗性が発達しているため、天敵を活用した防除体系も心がける。

6) ハモグリバエ類

予想 発生量: 多(東部、中央部)、少(西部)

根拠

- (1) 4月の調査では、東部・中央部で発生が見られ、発生面積は平年よりも多かった。発生程度は中央部で平年より高く、東部でやや低かった。
- (2) 例年5月は中央部・西部では増加し、東部では同程度の発生となる傾向にある。
- (3) 気温が上昇し、本虫の増殖に好適となることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対策

- (1) 黄色粘着トラップを設置し、成虫の早期発見に努める。発見次第すみやかに防除を行う。栽培の終了時にはハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底する。
- (2) 開口部に防虫ネットなどを張り、侵入を防ぐ。
- (3) 雑草にも寄生することから、ほ場周辺の雑草を除去する。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量:多(東部)、平年並(中央部、中西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は東部で平年よりも多く、中央部・中西部で平年並の発生であった。発病程度は東部・中西部で平年より高く、中央部で低かった。
- (2) 例年5月は県下全域で同程度の発生が続く傾向にある。
- (3) 向こう1か月の降水量は平年並、気温は高くなると予想されていることから、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、予防・発生初期の防除を徹底する。薬剤によっては、散布後も病斑の見た目が変化せず防除効果がわかりづらい場合があるため、防除後に展開した葉の発病の有無で防除効果を判断する。
- (2) 薬剤によっては耐性菌を生じやすいため、単一薬剤を使用するのではなく、ローテーション散布を心がける。

2) 斑点病

予 想 発生量:やや少(東部、中西部)、少(中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部で平年並、東部・中央部で少なかった。発病程度は中西部で平年より高く、東部でやや低く、中央部で低かった。
- (2) 例年5月は東部では増加し、中央部では同程度、中西部では減少する傾向にある。
- (3) 向こう1か月の降水量は平年並、気温は高くなると予想されていることから、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本病は20～25℃前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、予防・発生初期の防除を徹底する。
- (3) 発病葉は伝染源となるので早めに除去し、ハウス外で処分する。また、栽培終了後、伝染源を残さないように被害茎葉の処分を行う。

3) 黒枯病

予 想 発生量:多(中央部)、やや多(中西部)、やや少(東部)

根 拠

- (1) 4月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は中央部・中西部で平年より

もやや多く、東部でやや少なかった。発病程度は中西部で平年よりも高く、中央部で平年並、東部で低かった。

- (2) 例年5月は中央部で増加し、東部・中西部では同程度の発生が続く傾向にある。
- (3) 向こう1か月の降水量は平年並、気温は高くなると予想されていることから、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本病は25℃前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、予防・発生初期の防除を徹底する。
- (3) 発病葉は伝染源となるので早めに除去し、ハウス外で処分する。また、栽培終了後、伝染源を残さないように被害茎葉の処分を行う。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：多(中央部)、やや多(東部)、少(中西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では東部・中央部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年より多く、東部は平年並だった。発生程度は中央部で平年よりも高く、東部は低かった。
- (2) 例年5月は東部では増加し、中西部では同程度、中央部では減少する傾向にある。
- (3) 気温が上昇し、本虫の増殖に好適となることから、タバコカスミカメ等の天敵が定着していないほ場では既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底するとともに、栽培の終了時にはハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底する。
- (2) 開口部に防虫ネットなどを張り、侵入を防ぐ。
- (3) 薬剤抵抗性が発達しているため、天敵を活用した防除体系も心がける。
- (4) 雑草にも広く寄生することから、ほ場周辺の雑草を除去し、環境衛生に努める。

5) ヒラズハナアザミウマ

予 想 発生量：多(中西部)、やや多(中央部)、やや少(東部)

根 拠

- (1) 4月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部は平年より多く、中央部は平年並、東部は少なかった。発生程度は東部・中西部は平年より高く、中央部はやや低かった。
- (2) 例年5月は東部・中央部で発生が増加し、中西部では同程度発生する傾向にある。
- (3) 気温が上昇し、本虫の増殖に好適となることから、タバコカスミカメ等の天敵が定着していないほ場では既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底するとともに、栽培の終了時にはハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底する。
- (2) 開口部に防虫ネットなどを張り、侵入を防ぐ。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量:多(中央部)、やや多(中西部)、やや少(東部)

根 拠

- (1) 4月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりやや多く、中西部で平年並、東部で少なかった。発生程度は中央部で平年よりやや低く、東部・中西部で低かった。
- (2) 例年5月は県下全域で同程度発生する傾向にある。
- (3) 気温が上昇し、本虫の増殖に好適となることから、タバコカスミカメ等の天敵が定着していないほ場では既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は葉裏に産卵するため、薬剤防除は薬剤が葉裏にかかるように実施する。多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底するとともに、栽培の終了時にはウイルスを保毒した虫がハウス外に飛び出さないよう、ハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底する。
- (2) 開口部に防虫ネットなどを張って、媒介虫の侵入を防ぐ。
- (3) 薬剤抵抗性が発達しているため、天敵を活用した防除体系も心がける。

7) コナカイガラムシ類

予 想 発生量:多(中西部)、やや多(中央部)、やや少(東部)

根 拠

- (1) 4月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部で平年より多く、中央部で平年並、東部で少なかった。発生程度は中西部で平年より高く、東部でやや低く、中央部で低かった。
- (2) 例年5月は東部・中央部で同程度発生し、中西部で減少する傾向にある。
- (3) 気温が上昇し、本虫の増殖に好適となることから、ヒメカメノコテントウ等の天敵が定着していないほ場では既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 通常ほ場の一部から発生するので、早期発見に努め、低密度時にふ化幼虫の発生時期を狙って防除する。
- (2) 雑草類、観葉植物、果樹類などにも寄生するため、ほ場周辺の除草に努めるとともに、果樹等が植わっていれば防除を行う。

4 促成トマトの病害虫

1) 灰色かび病

予 想 発生量:多(中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では発生面積は平年より多く、発病程度も平年より高かった。
- (2) 向こう1か月の降水量は平年並、気温は高くなると予想されていることから、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本病は20℃前後の多湿条件で増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。

- (2) 多発すると防除が困難になるため、予防・発生初期の防除を徹底する。
- (3) 薬剤によっては耐性菌を生じやすいため、単一薬剤を使用するのではなく、ローテーション散布を心がける。

2) 葉かび病

予 想 発生量: やや少(中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では発生面積は平年よりやや少なく、発病程度は平年より低かった。
- (2) 向こう1か月の降水量は平年並、気温は高くなると予想されていることから、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本病は22℃前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、予防・発生初期の防除を徹底する。
- (3) 栽培終了後、伝染源を残さないように被害茎葉の処分を行う。
- (4) 品種間に抵抗性の差があるので、発生の多いほ場では抵抗性品種を検討する。

3) すすかび病

予 想 発生量: 多(中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では発生面積は平年より多く、発病程度も平年より高かった。
- (2) 向こう1か月の降水量は平年並、気温は高くなると予想されていることから、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本病は25℃前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、予防・発生初期の防除を徹底する。
- (3) 栽培終了後、伝染源を残さないように被害茎葉の処分を行う。

4) 黄化葉巻病

予 想 発生量: 多(中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では発生面積は平年より多く、発病程度も平年より高かった。
- (2) 気温が上昇し、本病の媒介虫であるタバココナジラミの密度が高まると見込まれること、潜在感染株で発病が見られ始めることから、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。
- (3) 既発ほ場を中心に新たな発病株が確認されている。また、タバココナジラミの発生面積も平年より多い。

対 策

- (1) タバココナジラミの防除を徹底するとともに、栽培の終了時にはウイルスを保毒した虫がハウス外に飛び出さないよう、ハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底する。
- (2) 開口部に防虫ネットなどを張って、媒介虫の侵入を防ぐ。
- (3) 発病株はほ場外に持ち出し、埋却などにより処分する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量:多(中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では発生面積は平年より多く、発生程度も平年より高かった。
- (2) 気温が上昇し、本虫の増殖に好適となることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は葉裏に産卵するため、薬剤防除は薬剤が葉裏にかかるように実施する。多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底するとともに、栽培の終了時にはウイルスを保毒した虫がハウス外に飛び出さないよう、ハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底する。
- (2) 開口部に防虫ネットなどを張って、媒介虫の侵入を防ぐ。
- (3) 薬剤抵抗性が発達しているため、天敵を活用した防除体系も心がける。

5 水稻（早期稲）の病害虫

1) スクミリングガイ

予 想 発生量:多(東部)、やや多(中西部)、平年並(中央部)、やや少(西部)

根 拠

- (1) 昨年の発生面積は、東部で平年よりも多く、中西部で平年並、中央部でやや少なく、西部で少なかった。
- (2) 冬季の気温が平年並～高く推移したことや、5月の気温も平年か高くなると予想されていることから、今後、活動が活発になると考えられる。
- (3) 中央部・中西部では発生が確認されている。

対 策

- (1) 水中で食害するので、発生ほ場では田植後2～3週間はできるだけ浅水管理(水深4cm以下)を行う。ただし、薬剤処理時や低温時には湛水状態とする。
- (2) 水路からの侵入を防止するため、取水口や排水口に金網等(約5mm目合)を設置するとともに、発生した貝と卵塊を捕殺する。
- (3) 貝の発生が多い場合には薬剤の本田施用を実施する。

6 カンキツ類の病害虫

1) カメムシ類

予 想 発生量:多(県下全域)

根 拠

- (1) 県内4地点(安芸市、香美市、須崎市、四万十市)で実施しているフェロモントラップ調査における4月の誘殺数は、東部で11頭(同4.9頭)、中央部で25頭(同5頭)、中西部で64頭(同49.7頭)西部で273頭(平年15頭)と平年より多くなっている。
- (2) 5月は平年同様晴れる日が多く、気温も高いと予想されており、本虫の活動に好適な条件になると考えられる。

対 策

果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、ほ場内をよく観察し、飛来を確認したら速やかに防除を実施する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ(こうち農業ネット) <https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.

高知県農薬情報システム <https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/haishinfile/list/kochi>

- ①農薬の検索
- ②農薬データの一覧
- ③配信ファイルの閲覧(農薬安全使用、病虫害防除指針 etc.)